

芸術家達の交流と感情世界

魂を奏でるピアニスト

村上

巖

ピアノリサイタル

プレイエルとエラールで語る

ショパンとリストの交流

2013年10月19日(土)

午後2時開演

Cafe プレイエル 喫茶ホール

4,000円 (35名様限定)

☆申込み

TEL 0263-92-8158



使用ピアノ

プレイエル	1923年	in Paris
エラール	1909年	in Paris

《プロフィール》

1972年生まれ。第38回全日本学生音楽コンクール・ピアノ部門、小学生の部、全国第1位
東京芸術大学付属音楽高等学校卒業。
東京芸術大学楽器科ピアノ専攻入学。
1991年PTNAコンペティション特級にて金賞。
文部大臣賞、日本テレビ賞、モーツァルト賞、
ミキモト賞を受賞。
第61回日本音楽コンクール・ピアノ部門第2位。
井口賞、河合賞受賞。
1993年フランス政府給費生としてパリ国立高等音楽院
入学。
1994年「マリア・カナルス国際音楽コンクール」奨励賞。
「第46回ブゾーニ国際音楽コンクール」第2位及び聴衆賞。
イタリア、フランス、ドイツなどヨーロッパ各地で
リサイタルに出演。
1995年パリ国際高等音楽院をプルミエ・プリ (1等賞)
を得て首席で卒業。
「パロマ・オシユア国際音楽コンクール」奨励賞。
安宅賞受賞。
1996年NHK・FMリサイタルに出演。
1997年東京芸術大学卒業。
1999年文化庁給費生として、ベルリン芸術大学大学院
にて2年間研修。
2002年日本各地でリサイタル、ピアノ協奏曲、室内楽
などに出演。
これまでに、長島寛行、高良芳枝、安川加寿子、
植田克己の各氏に師事。パリやベルリンでは、
パスカル・ドゥヴァイヨン氏に師事。室内楽を
クリスチャン・イヴァルディ氏に師事。

program

pianoプレイエルで

ショパン ワルツ 第5番 イ長調 作品42
ノクターン 第5番 嬰ハ長調 作品15の2
ノクターン 遺作 嬰ハ短調
マズルカ 第38番 作品59の3
バラード 第2番 作品38
アンダンテ・スピアナートと
華麗なる大ポロネーズ 作品22

pianoエラールで

リスト ため息
雪かき
愛の夢 第3番
ダンテを読んで



※ 演奏曲目は都合により変更される
場合がございます

第41回 Café プレイエル & ギャラリーやましる 定例コンサート

2013年10月19日(土) 2:00

むらかみ いわお

村上 巖 ピアノリサイタル

～芸術家達の交流と感情世界～

プレイエルとエラールで語る ショパンとリストの友情と交流

ショパンの部屋には プレイエル・ピアノが

ロウソクの光に映し出されていた

ショパンは 少しヴェールのかかった

銀のような音の このピアノを愛していた フランツ・リスト

使用ピアノ ^{プレイエル} pleyel No.174215 1923年 / ^{エラール} erard No.95463 1909年 in Paris

プログラム

- ショパン作曲 ワルツ第5番 変イ長調 作品42
ショパン作曲 ノクターン第5番 嬰へ長調 作品15の2
ショパン作曲 ノクターン遺作 嬰ハ短調
ショパン作曲 マズルカ第38番 嬰へ短調 作品59の3
ショパン作曲 バラード第2番 へ長調 作品38
ショパン作曲 アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ 作品22
- リスト作曲 ため息(3つの演奏会用大練習曲より)
リスト作曲 雪かき(超絶技巧練習曲より第12番)
リスト作曲 愛の夢 第3番
リスト作曲 ダンテを読んで ソナタ風幻想曲
(巡礼の年 第2年「イタリア」より第7曲)

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

プログラムノート 村上 巖

本日は、よろこそ「村上 巖ピアノリサイタル」にお越し下さり、本当に有難うございます。
暫しの時間ではございますが、素敵なカフェ プレイエルの名器、プレイエルとエラールの紡ぐ
ピアノの音色に耳を傾け、皆様とご一緒にショパンとリストの音楽をお楽しみ戴けたら、と思
います。

ショパンとリストの音楽についてひと言

F.ショパン(1810~1849)はポーランド出身、F.リスト(1811~1886)はハンガリー出身の作曲家で、共に作曲家兼ピアニストでした。ショパンもリストもパトロンなる善き理解者に恵まれ、その生涯は波乱万丈でしたが、生涯を通して互いに、深い友情で結ばれていました。各々に、作曲家、ピアニストとしてのみならず、後世に多くの弟子を育てました。リストが自身の弟子の一人をショパンのもとへ送り、リストからの伝言をショパンに伝えた時、それを耳にしたショパンは、天使のような笑みを魅せた、とのエピソードは、良く知られるところです。

ショパンの音楽は、あらゆる国境、身分、時代の垣根を越え、私達の心を捉えて放しません。その音楽は、出来事、事柄をタイトル等の力を借りずに、純粋にその心象風景を音の文章で綴った抽象音楽です。孤高の芸術家と呼ばれるショパンの作品から、「ワルツ5番」(1840年作)、「ノクターン第5番」(1830-31)、「ノクターン遺作嬰ハ短調」(1830年、若いショパンの片想いだっただ女性コンスタンツィア・グラトコフスカへの想いを歌った歌)、「マズルカ第38番」(マズルカはポーランドの魂、民族舞踊の一つ)、「バラード第2番」(1840年作)「アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ」(1831年作、ポロネーズもポーランドの民族舞踊の一つで、その性格は極めて男性的。映画「戦場のピアニスト」の中でもエンディングに用いられ、ノクターン遺作と共に、広く知られるようになりました)。これらを皆様と共に、味わってみたいと思います。

リストの作品は、ショパンとは異なり、標題音楽の先駆者として、音楽史上、後のベルリオーズ、ワーグナー、シェーンベルクへと展開する先駆けとなりました。標題音楽とは、ある出来事、タイトル、物語等、純粋な音楽以外の事柄を、音楽に書き映し投影させる音楽を言いますが、リスト自身、タイトルを付けるセンスは概して無骨であり、「雪かき」、「狩り」、「鬼火」、「タベのしらべ」、等々、ショパンの洗練された芸術的なセンスとは、若干異なる人となりを窺わせます。「ため息」は、映画のテーマにも用いられ広く知られる曲ですが、タイトルはフランスの出版社が名付けたもので、リスト自身によるものではありません。「雪かき(雪あらし)」は、超絶技巧練習曲の最後の一曲で、正しく超絶技巧を駆使して、雪あらしが風に舞ってふぁーっと切なく散って行く様子を描写しています。あまりにも有名な「愛の夢」は、「おお、愛し得る限り愛せ」というフライリヒャート(ドイツの詩人・翻訳家 1810-1876)の詩を音楽で歌った歌で、浅田真央さんの華麗なスケートの音楽としても、皆様、良くご存知なのではないでしょうか。ダンテの「神曲」にインスパイアされた詩に基づく音楽「ダンテを読んで」は、地獄篇、煉獄篇、天国篇と一連のドラマの如く、ノンストップで綴られた作品で、リストの世界観、死生観を垣間見る音楽です。

ショパンとリスト、各々にその生まれ、人となり、音楽は異なりますが、お互いの間では、芸術という、大きな力への信仰心のようなものを内在する世界と向き合いつつ、お互いを認め、尊重し、同じ時代を生きる芸術家としての連帯感、使命感、佳きパートナーとしての深い友情があったのではないのでしょうか。真に「我々」と呼べるパートナーに恵まれる事は、出会いのワンシーンとして、真に幸せなのではないのでしょうか。聖書からの一節です。「愛は決して滅びない。」

本日、皆様との素敵なご縁に感謝申し上げます、また、お会い出来ます時を、心待ちにしています。

本日は本当に有難うございます。

2013. 10. 19 カフェ プレイエルにて 村上 巖